

第82回(令和5年度)全国産業安全衛生大会in名古屋への参加ニュース

第82回(令和5年度)全国産業安全衛生大会が、9月27日(水)～29日(金)の3日間、愛知県名古屋市で開催されました。全国から、約11,500名が参加され、当協会からも8名が参加いただきました。

大会初日は、ポートメッセなごや第1展示館で総合集会が行われ、第一部の開会式では、西村司中災防副会長による開会の辞に始まり、十倉雅和中災防会長による大会式辞(ビデオ)、宮崎政久厚生労働副大臣、室伏広治スポーツ庁長官、大村秀章愛知県知事によるご祝辞、河村たかし名古屋市長によるビデオメッセージ、開催地の山碓聡志公益社団法人愛知労働基準協会副会長によるご挨拶をいただきました。

続いて、産業安全衛生活動の推進に功績のあった企業、個人に対する表彰式が行われ、その後大会宣言が採択されました。また、ゼロ災運動50周年を記念した講話と指差し唱和も行われました。

第二部では、美濃芳郎厚生労働省労働基準局安全衛生部長による講演「労働安全衛生行政の動向」、室伏広治スポーツ庁長官による特別講演「スポーツで未来を創る～ライフパフォーマンスの向上のためにスポーツが果たす役割～」とエクササイズが行われました。室伏広治スポーツ庁長官は砲丸投げの話が多かったです。

28日、29日は4会場に分かれ、マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会などの9つの分科会が行われました。

国内最大の安全衛生イベント 8年ぶりの名古屋開催

総合集会

安全衛生に功績のあった方々の表彰、厚生労働省の講演、特別講演を行います。

9月27日(水) **会場** ポートメッセなごや

13:15～17:00 (開場11:30予定) 【アクセス】おおなみ線「金城ふ頭駅」より徒歩5分【所在地】愛知県名古屋市港区金城ふ頭2丁目2



特別講演 「スポーツで未来を創る ～ライフパフォーマンスの向上のためにスポーツが果たす役割～」

東京オリ・パラ競技大会は「楽しさ」や「喜び」などスポーツの持つ様々な価値を改めて確認できた大会となった。今後このスポーツ・レガシーをいかに継承・発展させていくかについて、ライフパフォーマンスの向上のためにスポーツが果たす役割を中心に話したい。

スポーツ庁長官 **室伏 広治 氏**

【プロフィール】2004年アテネオリンピック陸上競技ハンマー投げ金メダリスト。夏季大会4回出場。東京医科大学教授、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会スポーツディレクターなどを歴任し、2020年10月より現職。

分科会

全国の事業場からの研究発表をはじめ、最新の安全衛生の課題に対応した講演、パネルディスカッション等、多彩なプログラムを予定しています。

9月28日(木)、29日(金) **会場** ポートメッセなごや

講演

〈マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会〉



9月28日(木) 13:00～14:00

「愛知労働局が提唱する「安全経営あいち」」

愛知労働局 労働基準部 安全課長 **濱田 勉 氏**

講演

〈化学物質管理活動分科会〉



9月29日(金) 14:20～15:50

「化学物質の自律的な管理、何から始める？」

(株)労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 化学物質情報管理研究センター **城内 博 氏**

労働劇



9月29日(金) 13:00～14:10

「パワハラ防止劇 大事な社員を会社嫌いにさせないために」

制作・出演 愛知県下各労働基準協会 役員企業担当者・役職員

分科会名	日程	分科会名	日程
マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会	9/28、29	労働劇	9/29
安全管理活動分科会 (第1会場)	9/28、29	安全衛生教育分科会	9/28、29
安全管理活動分科会 (第2会場)	9/28、29	ゼロ災運動分科会	9/28
安全管理活動分科会 (第3会場)	9/29	労働衛生管理活動分科会	9/28
機械・設備等の安全分科会	9/28	化学物質管理活動分科会	9/29
DX等分科会	9/29	メンタルヘルス・健康づくり分科会	9/28、29

以下は、※印は参加した報告のあった講演・研究発表の概要です。□の中には感想、感心したこと、興味を覚えたこととです。

機械・設備等の安全分科会9月28日(木)

9:30粗ミル機内足場改善楽々OK！トランスフォーム足場に歓声！※

JFEスチール(株)東日本製鉄所(京浜)設備部熱延設備室一般太田充紀

活動のきっかけは、圧延機内作業時に発生する開口部の養生に足場が必要であるが設備の停止位置により設置が出来なかったことである。今回は、何度も失敗しながらも、自由自在に変形する足場を考案し、設備停止位置に関係なく足場設置が可能となり安全に作業できるようになった事例でした。

9:50感電災害の教訓を生かした、新形状ライン側接地金具の開発について※

株ユアテック本社電力インフラ本部送電部送電営業グループ一般職吉田佑太

該社送電部門では過去に作業用接地のライン側接地金具が外れ静電誘導による感電災害が発生した。類似災害防止のため技術的な対策とし「電線外れ止め機構」と「ロック機構」を備えた新形状ライン側接地金具を開発した。本開発までの取り組みと製品の特徴について発表されました。

10:20廃プラ中間処理施設の安全化事例～設備状態の見える化で作業を守る～※

J&T環境(株)技術本部設備部鶴見設備室部員浪岡朋也

プラスチック廃棄物の選別／梱包施設において、内部が見えないことによる操業ロスが発生するとともに、点検口の開放作業も安全上のリスクがあった。そこで、開放時は装置が自動停止する点検窓を設置するとともに、設置時の対話を通じて外国籍作業者の安全意識向上が図られました。

10:40協調安全に独自の物理的対策を加え、高所作業車のウェルビーイング向上について※

大和ハウス工業(株)技術統括本部安全部主任森朋仁

高所作業車上昇中に構造物や設備に挟まれる致命的な労働災害防止には、協調安全「Safety2.0」を用いて物理的安全対策を施す事により、SDGs目標8達成に向けた取り組みをし、安全・安心化によるウェルビーイングの向上をさせた取り組みが報告されました。

11:10講演「攻めの安全とは～ヒューマンエラー防止に向けた管理者の持つべき視点～※

(一社)日本金属プレス工業協会安全・環境委員会アドバイザーSRC研究所塚原利夫

ヒューマンエラーは、できの悪い人間のお粗末な行動の結果と捉えられがちであるが、それは決して正しい評価ではない。それはエラーを誘発する罠に嵌まってしまった結果と診るべきである。この罠、すなわちリスクと如何に戦うか、そのあるべき管理者の視点を考える講演でした。

13:10重力鋳造職場の安全性向上※

カワサキモータース(株)生産本部エンジン製造部加古川鋳造課班長仲豪紀

重力鋳造職場全員の安全意識を向上させ、今まで「あたりまえに行っていた作業」に潜む不安全行動や不安全状態を抽出し、リスクアセスメントの手法を活用してリスクレベルの低減を図り、重大災害の防止と「安全で楽しく働ける職場づくり」を実現することが出来たという報告でした。

13:30重量物を取扱う非定常作業に於ける災害リスク低減に向けた改善活動※

ナブテスコ(株)鉄道カンパニー神戸工場開発部機構開発課主任勝田直志

私たちの職場は重量物を取り扱う作業があり、その多くが非定常作業である。この非定常作業に於ける災害リスクを減らすため、作業方法を根本から見直し、安全性と生産性の両立を創意工夫のもと、低予算で抜本的安全対策に繋げた改善活動が報告されました。

14:20史上最悪の作業に挑め！～らくらくロール手入れへの道～※

JFEスチール(株)西日本製鉄所(倉敷地区)鍛造工場一般横溝沙有理

鋼板の歪不良を平坦な鋼板に仕上げるための矯正設備で、設備内の矯正ロールに疵が発生すると矯正を行った鋼板に疵が定ピッチで転写するロール疵が発生する。そのロールの疵を除去するために行うロール手入れ作業の危険を排除、安全で誰でも簡単に作業出来る本質安全化に成功した報告でした。

14:40その作業、何歳までできますか？なくすぞ人力作業！※

JFEスチール(株)東日本製鉄所千葉地区熱延部熱延工場ダウンヒルグループ一般職柳瀬良介

現場の人力作業の中で、特に力を必要とする作業であった予備バンドの移動は、シニアの方には負担が大きい。今後の現場の高齢化も考え、人力作業をなくしていく事を前提に取り組んだ報告でした。

15:00垂直昇降型高所作業車の手指はさまれ防止対策※

株ユアテック東京支社設備課一般阿部令

建築電気設備工事における垂直昇降型高所作業車使用時の労働災害は増加傾向にある。なかでも手指の「はさまれ」災害においては、有効な対策や製品が無かったことから、その対策品の製品化と社内ルールの策定を行った。製品化までを振り返り、社内の取り組みが発表されました。

ゼロ災運動分科会9月28日(木)

12:40運動展望ゼロ災運動50周年を迎えて、これからのゼロ災運動を展望する※

中央労働災害防止協会教育ゼロ災推進部次長武井勝一

ゼロ災運動は、1973年に中災防の提唱によりスタートし、2023年に50周年を迎え、この間ゼロ災運動は、労働災害の減少に貢献してきた。チームワークを高める短時間ミーティングやいきいきした職場づくりを進めるKY活動等について、これからのゼロ災運動の展望についての講演でした。

13:10危険感受性向上への挑戦～見える化マップ導入と自問自答1人KYT※

株レールソリューションズゼロ災推進リーダー吉原恵一

わが社では安全PDCAサイクルを体系化し、社員の安全教育に尽力している。現場力をより高めるために個人の危険感受性向上を次の課題としている。今回は見える化マップ導入と自問自答1人KYTを導入したことでわかってきた現在の課題とそれに対する取り組みを中心に発表されました。

13:40夜間でもゼロ災！KYミーティングの実施による労働災害防止術※

東急プロパティマネジメント(株)ビルマネジメント事業本部施設サービス部アメニティ課ナイト班副班長藤林悟

駅清掃業務では、夜間作業が365日どこかの駅で実施されている。夜間ならではの環境的・身体的負担がある中で、夜間作業チーム「ナイト班」は無事故を約9年間継続している。その要因は作業前のKY活動にある。今回は、実施例を交えた取り組みが発表されました。

14:00本音で取り組む現場のゼロ災運動※

株東研サーモテック名張工場工場長安田久雄

金属熱処理工場のゼロ災運動が報告されました。①コロナ禍でのKYT継続(A1判用紙で10分5人以下実施)、②管理者コメント、外国人チーム結成でKYT活性化、③若手安全対策チームのナゼナゼ分析で過去労災再検証、④安全日誌で本音のキガカリを情報共有、⑤HHK活動活性化、⑥KYT実技を予定

DX等分科会9月29日（金）

9:30夜間広域警備への自動飛行ドローンの適用※

武田薬品工業(株)光工場EHS室課長代理伊藤聡史

約100万m²の敷地を有する製薬工場の夜間警備に、自動飛行を行う産業用ドローンの活用を試みた。自動飛行ドローンは、危険物等を取扱うエリアに対して、安全な高度からサーモカメラで広域監視することができ、特に夜間の防火警戒能力を発揮した検証結果が発表されました。

10:103D点群スキャナを用いた測定による感電リスクの低減※

東日本旅客鉄道(株)高崎支社高崎電力技術センター高崎電力メンテナンスセンター係員石井亨承

車両センター構内の地上変圧器における高圧ケーブルの検査の際に誤って配電停止されていない回線の加圧部に接近し感電事故が発生した。今回、3D点群スキャナと呼ばれる、最先端の測定器を活用することで、作業員の感電に対するリスクの低減を目的とした取り組みが発表されました。

10:30医療職業業務のPowerPlatformを使用したDX化の取り組み※

トヨタ自動車(株)安全健康推進部健康安全DXグループ一般柿本絵里香

感染対策や在宅勤務など業務の多様化により医務職の仕事も変化している。社会的変化の中、医務職の作業効率向上、人的ミス削減ため、現システムの汎用性の低さを補い、利便性を高めたPowerPlatformを使用したDX化への取組が発表されました。

11:00デジタル技術を活用した個人用保護具適正使用の推進※

AGCテクノグラス(株)技術センター溶解成形グループ製造班長矢澤英則

保護具の適正使用は事業場の安全活動の基本でありながら保護具の不適切な着用起因する災害をゼロにできていない。今回リスク評価から抽出した「言い訳」をもとに、画像判別AIにより保護具装着の意識づけを行い、作業員の安全意識を「楽しく」向上させる事例が発表されました。

安全管理活動分科会(第3会場)9月29日（金）

9:30製造現場に寄り添ったエイジマネジメント活動※

トヨタ自動車九州(株)安全健康管理部ヘルスケアセンター一般高野浦里奈

製造業における労働者の高年齢化問題が顕在化。「いつまでもいきいきと働き続けられる人・職場づくり」を目指して、現場に寄り添ったエイジマネジメント活動を本格的に実施。現場・人事・生産管理部門と協働し、健康施策のためのトライを実施した成果などが報告されました。

- ・10年以上前から危惧されていた社員の高年齢化問題がつついに顕在化している。
- ・いつまでも生き活きと働き続けられる人・職場づくりを目指し、体力測定の実施や個別アプローチ
低体力者に4ヶ月クールでのトライを実施。
- ・「プラチナシニア制度」という人事制度をつくり、定年後も体力面の衰えがなく(少なく)会社が認定した者には「プラチナシニア」として認定し、待遇面で定年前と同等にしている。
→シニア層のモチベーション維持・向上

安全管理活動分科会（第1会場）9月29日（金）

12:40令和5年度日本化学工業協会安全最優秀賞受賞事業場デンカ㈱波川工場の安全活動

～重大災害ゼロを目指して～※

デンカ㈱波川工場執行役員波川工場長野口哲央

該工場は、2016年に重大災害を発生させた苦い経験があり、その教訓の下、設備の本質安全化に真剣に向き合い積極的な安全投資を実施し、同時にコミュニケーションを主体とした特徴ある安全活動を展開することで、現在7年間休業災害ゼロを継続中。それらの活動内容が報告されました。

- ・「設備の本質安全化」を目指す→形式的な安全化では不十分
- ・「安全投資」という予算枠を設け、リスクアセスメントで高リスクと判断された作業を常に改善
- ・「見守りカメラ」を工場内に多数設置→監視ではなくあくまで安全対策として設置

安全衛生教育分科会9月28日（木）

10:20新瞬間KYTによる危険感受性の維持・向上と背後要因を用いた職場リスク削減活動

日油㈱愛知事業所環境安全管理室小島幸也

背後要因を活用した瞬間KYTの実施方法に改良を加えた新瞬間KYTを実施し、災害に至るシナリオを思いつく「想像力」を強化することで、危険感受性の維持・向上に欠かせない「気付力」の強化を図りました。また、並行して背後要因を切り口とした職場リスクの削減活動を行いました。

10:50コロナ禍で対応したリモート安全道場の教育実施

三菱自動車工業㈱岡崎製作所管理部安全衛生グループ主任澤村弘

コロナ禍において該社では、在宅勤務や3密回避等により安全教育道場が使用し辛くなり安全教育方法を検討していたところ、グループ員より在宅勤務やPCから安全が学べるリモート安全道場を作る案が出されました。2021年9月からの作成検討・作成編集・設置・活用までが報告されました。

11:10社内教育「ユークラック専門学校」の立ち上げから現在に至るまで～学ぶ側から教える側へ～

有楽製菓(株)豊橋夢工場生産部生産三課係長岡本智晴

中途入社をした報告者自身、ルール等様々な面で苦労した経験がありました。新入社員に同じ思いをさせたくないとしてユークラック専門学校を立ち上げた。周囲を巻き込み、毎年入社2～3年目の若手20名が実際に起こったトラブル事例、専門用語や社内ルール等の講義を実施。今年で5年目となります。

11:30安全の取り組みの核となる所内版「安全を担うフォアマン」の育成と活用

東日本旅客鉄道㈱東北本部郡山総合車両センター総務科指導係佐藤隆英

めまぐるしく変化する環境下で、先取りの安全を実現するため、周囲の社員や職場を動かす「おもい」を重視した育成を行っている。そんな「安全行動の推進力向上」を目的とした「安全を担うフォアマン」育成の取り組みによる成果と、今後の展開について紹介されました。

12:50講演ほめるコミュニケーションが生む職場の活力とモチベーション※

オフィスファイン代表ほめる感動経営コンサルタント（一社）日本ほめる達人協会特別認定講師

（一社）感動経営コンサルタント協会中村早岐子

ほめ達（ほめる達人）が伝える「ほめる」とは価値を発見して伝えること。職場だけではなく、家庭や身近な環境でもすぐ実践できて効果が実感できるほめるコミュニケーションのコツが紹介されました。新しく「ほめる」アプリを自分にインストールします。

講演で中村早岐子先生の「ほめるコミュニケーションが生む職場の活力とモチベーション」の聴講では人の育成の難しさより楽しさを知ることができました。以下がポイントです。

- 若い世代にはプラス言葉で応援する。その違和感を楽しみ、言葉だけではなく、表情や身体をつかって感じる
- こと。
- 成長と貢献。人と比べない。何を考えているのか決して探らない。
- ほめる・ほめられることへの訓練し、自己愛を高めてあいさつしよう。その人の価値を発見しよう。特に中堅やベテランには訓練が必要。
- ピンチは自分の成長につながる。人生を豊かにする。視点を変える。
- 「でも」「だって」「どうせ」の 3D は負の連鎖、「すごい」「流石」「素晴らしい」の 3S は正の連鎖を増やす努力。
- 本気で拍手をしよう！！本気でうなずこう！！本気で笑顔でいよう！！
- 「事実」と「ありがとう」が普通に言えるか言えないか。
- 正論の正論は相手を傷つけることを十二分に理解する。

講演内容の主なものを記すと、①「ほめる」価値を発見して伝えること②成長と貢献の実感③すぐに役立つ「ほめて⇒認めて⇒アドバイス」の3ステップ④すぐできる職場の「ほめるメソッド」⑤その他について本来、2時間の内容を1時間に短縮し講演された。

昨今、従業員の離職の要因の一つに「職場の人間関係が好ましくなかった」ことを理由に挙げているケースもあり、厳しい上司や先輩との関わりにストレスを感じてしまい仕事そのものがつらくなってしまおうといったことも見過ごされていることはないのか。

できて「当たり前」、気になるところは「注意」、アドバイスのつもりで伝えていることが自信を持ってない従業員には、それが厳しい「言葉」になって聞こえてくる。

一般的に人間は、どうしても「足りない」ところを探しアドバイスすることに傾注されるという。

その改善策として、講演内容③にある「ほめて⇒認めて⇒アドバイス」について説明された。「良いところ」をしっかりと伝えること。「当たり前」となりがちなことも「良いところ」を見逃さずしっかりと目を向け「ほめる」そして対処されたことを「認める」また、不足しているところについては「アドバイス」していくことが大事であり、そのような取り組みすることにより信頼関係につながりまたコミュニケーションを高め「職場の活性化」に結びつくことを強調された。

今回の、講演資料の中に「ほめるコミュニケーション」が定着する効果について記してあったので紹介したい。

- 高いモチベーションを維持することができる。
- 起きる出来事に左右されない考え方や、ネガティブをポジティブに捉える思考法が身につく、落ち込みにくくなる。
- モチベーションが下がる前に対象ができるようになる
- 発言や行動が前向きになり、人間的に成長する。

など参考にされてはいかがでしょうか。

最後に今回の講演を傾聴し「職場の活力とモチベーション」の基本的な職場のコミュニケーションづくりという点で「ほめて⇒認めて⇒アドバイス」に結びつけることが「職場の活性化」敷いては「企業の繁栄」に結びつくことを認識した貴重な講演であった。

14:00特別報告サミットにおける労災事故防止の取り組み～現場が自ら取り組みだすために～

サミット(株)人事部マネジャー安田大輔

労災防止は、店舗と安全衛生担当の人事部のみで行われるものではない。店舗を統括する部署、それぞれの商品部など、いわゆる営業部署が自分事として取り組む事が重要。具体的に、営業部署が自分事として取り組んだ内容、また店舗が独自に取り組んだ内容が紹介されました。

14:30危険体感巡回教育によるグループ安全衛生管理のレベルアップ

(株)フジクラEHS管理グループ係長小幡博

危険感受性の向上を主目的に、2019年から危険体感装置をモバイル化し、国内の拠点間を定期巡回しています。受講者の移動が不要、間接部門も参加し易い等の利点を活かし、多くの人を巻き込み、一体となった安全衛生管理レベルを高める活動につながったので、その概要が報告されました。

労働衛生管理活動分科会9月28日（木）

9:50講演合理的配慮～誰もが働きやすい環境を実現するために～

南森町CH労働衛生コンサルタント事務所代表・産業医辻洋志

法改正により2016年から事業主は幅広い「障害」を持つ従業員へ、「合理的配慮」の提供が義務付けられました。近年のダイバーシティ推進の流れも背景に、病気や障害を持つ従業員にとって働きやすい環境実現への期待が増えています。現場での配慮の実践につながるポイントが紹介されました。

10:50低騒音高压エアノズルの発明による作業環境改善～近畿日本鉄道㈱における取り組み

近畿日本鉄道㈱名古屋統括部運輸部車両課塩浜検修職場助役村田博之

近鉄では、鉄道車両の定期検査時に床下機器や配管に堆積した塵埃を清掃するためのエアノズルを発明しました。この低騒音高压エアノズルを使用することで作業場の騒音レベル低下による環境改善が図れましたので、開発のポイントならびに活用について報告されました。

11:20鹿処理対応に伴う安全衛生リスクの軽減に向けた取り組み

東海旅客鉄道㈱静岡支社身延保線区施設係上田悟

列車が鹿等と衝撃した際、衝撃した鹿等の処理は保線区が行っています。一連の処理の流れには様々な安全衛生リスクが潜んでおり、近年衝撃件数も増加し対応頻度は高くなっています。そこで、山梨県を巻き込んだ鹿処理の仕組みを構築、死骸保管方法改善、処理時の墜落防止を検討しました。

11:40社内における作業環境改善活動の推進

プライムアースEVエネルギー㈱安全健康推進室小田泰成

社内では特化物（金属粉じん）を使用しており、作業環境管理のレベルUPが課題です。課題解決のため各部署の専門家を集めた作業環境改善チーム立ち上げ改善活動を行いました。成果としてスピード感を持った作業場の改善、環境悪化の未然防止が可能となりました。

13:00特別報告最近の労働衛生に関する動きについて

厚生労働省労働衛生課長松岡輝昌

労働者の高齢化やテレワークの普及など働き方の多様化に伴い、職場における労働衛生対策の対象や範囲は拡大しています。このような社会情勢の中、令和5年度より14次労働災害防止計画がスタートしました。14次防計画における重点事項を中心に、メンタルヘルス対策や治療と仕事の両立支援等の職場で求められる取組に関する最近の労働衛生行政に係る動きについて紹介されました。

13:30熱中症Literacyの向上にむけて（導入編）～新しい視点からの意識改革～

（一社）日本自動車工業会安全衛生分科会Bグループ研究会委員（三菱ふそうトラック・バス㈱人事本部人事企画部安全衛生）別役重久

本研究会は関東圏自動車完成車メーカー7社で構成され、本年は「熱中症」をテーマにして各社のデータを分析し議論を重ねました。分析から読み取った傾向を基に、熱中症予防の観点から特に「暑熱順化」に着目し、「導入編」として各社が実施した活動が紹介されました。

13:50さらなる熱中症災害対策を目的とした追跡調査

㈱ユアテック技術開発センター副長佐藤寿実

熱中症災害対策として導入した「ファン付き作業服」を着用しても、熱中症を発症する事例が近年散見されます。潜在的な原因の調査および、更なる熱中症対策技術の検討を目的に、技術的な視点で追跡調査を行った結果が紹介されました。

14:20女性社員の継続的就業と、いきいきと輝き続けるための「フェアミーティング」の取り組み※※

西日本旅客鉄道(株)金沢支社金沢新幹線電気区電気管理係山崎紀子

JR西日本の工務系女性社員は、極めて少数のため女性特有の悩みに対する支援が乏しい現状を感じ、継続的かつ、いきいきと就業可能な環境作りを目指した会を起ち上げました。当初はコロナ禍もあり、試行錯誤しながらも参加者の拡大、ソフト・ハード面の成果と、その過程が紹介されました。

メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会9月28日（木）

9:30食育活動推進によるヘルスリテラシーの向上

トヨタ自動車(株)安全健康推進部第1健康支援室元町健康支援グループ一般石川理良

食事指導対象者の多くが、長年の食習慣の積み重ねに起因しているが、工場での食育活動は、後発的かつ単発的な関わりが主軸でした。今回、食堂・売店業者様と連携を図り、ポピュレーションアプローチを強化し、ヘルスリテラシー向上に取り組んだ歩みが報告されました。

9:50未来の自分へ健康な体を届けるITベンチャーの食への取り組み※※

(株)エボルブOperationDesign部主任阿世知みさき

平均年齢28歳、平成生まれ8割、生活が不規則になりがちな社員多数のIT系企業。ぼっちゃりもちらほら!!メンタルヘルス不調ゼロを目指す一次・ゼロ次予防と並行して「1年後、30年後の自分へ健康な体を届ける食生活！」を掲げ、IT系企業ならではの食生活改善の取組が紹介されました。

10:10特別報告労働者の健康確保と健康保持増進のために※※

愛知労働局労働基準部健康課課長山本祥喜

労働者の生涯において、職業生活は非常に高い割合を占めることから、事業場においては必要な健康確保を図るとともに、継続的かつ計画的な健康保持増進に努めることが重要である。第14次防を踏まえた愛知労働局での健康確保対策の取り組みが紹介されました。

10:50ダイセル播磨工場における食行動変容の取り組みについて※※

(株)ダイセル事業支援本部Gr健康サポートセンター(兼)播磨工場総務部保健師桐田真由

当工場における肥満・生活習慣病予防対策の取組として、これまでの保健指導に加え、ベジチェックの測定を取り入れました。1日どのくらい野菜を摂取しているかミエル化を図ることで、野菜不足を理解し、意識して野菜を摂取する方が増えた。この生活習慣病予防対策の取組が発表されました。

11:10健康KPIの設定と、健康行動の実践/定着のための取り組み※※

豊田合成(株)健康管理センター安全健康推進部健康推進室グループリーダー井上和美

これまでの有所見者に対する健康施策ではなく、従業員全員の健康意識/行動変容を促進するために、新たに8つの健康指標を採用した。現状調査から重点取り組み項目を選定し、社内外の連携取り組みにより、各指標のポイントアップが図られました。

11:30特別報告「コロナ禍がもたらした生活習慣等の変化～愛知県三河地区各労働基準協会の調査～

岡崎労働基準協会元専務理事(藤田医科大学公衆衛生学教室研究員)／もろかみ労働安全衛生コンサルタント事務所長(中災防安全衛生エキスパート)加藤善士

愛知県三河地区の各労働基準協会は協力し、2020年に事業場のコロナ禍の影響(2協会)、2021年は講習受講者に(コロナ禍前後での)生活習慣の変化(3協会)、2022年には講習受講者に健康状況等(5協会)のアンケート調査を行った。その結果概要が報告されました。

12:50 講演「労働者における勤務状況・生活習慣とストレス及び生活習慣病の関係(+情報提供)」※※

早稲田大学スポーツ科学学術院スポーツ疫学研究室教授澤田亨博士 課程郡山さくら
中央労働災害防止協会健康快適推進部 上席専門役 浜谷啓三

早稲田大学スポーツ科学学術院スポーツ疫学研究室と中災防が共同で、中災防のストレスチェックサービス総合版のデータを用いて、「勤務状況や生活習慣とストレスおよび生活習慣病の関係」に関する解析を行ったこと、厚労省から新たに公表される予定の身体活動・座位行動ガイドラインの概要が紹介されました。

14:00 全豊田安全衛生研究会健康部会における「健康チャレンジ8」の取り組みについて※※

豊田通商(株)人事部健康管理室 保健師 西山晴香

全豊田17社で構成されている全豊田安全衛生研究会健康部会では8つの健康習慣の改善に取り組む活動「健康チャレンジ8」を推進しています。豊田通商(株)では2021年度に導入し、取り組みに対するデータ分析、効果検証をおこないPDCAを回し社員のヘルスリテラシーの向上に努めています。

14:40 高齢化対策「いきいき健康プログラム」の取り組み※※※

トヨタ自動車(株)安全健康推進部第1健康支援室健康企画G主任 井上章平

60歳以降も業務や私生活においていきいきと活躍し続けることができるように運動機能維持向上を目的とした「いきいき健康プログラム」をスタート。また製造現場で起こる職業性疾病予防にも取り組み、現在は2本柱の筋骨格系疾病予防活動と運動機能改善活動で活動を継続中。

- ・コロナ感染拡大時等でも継続していけるような、環境に左右されないプログラムづくりが必要
 - ・厚生労働省の「エイジフレンドリーガイドライン」を参考に、運動機能改善に取り組んだ。
- 「体力テスト」の実施と「InBody」を採用した体力測定を実施。毎年測定し改善が必要な社員には個別指導でPDCAを回す。

15:10 高年齢社員への健康支援と職域拡充～転倒等リスク評価セルフチェックを通じて～※※

ヤマト・スタッフ・サプライ(株)CSR戦略部アシスタントマネージャー 日野貴久

当社は全国1万名の高年齢社員を雇用しているが、適切な職種職域の提供、労災発生率低減を課題としている。施策として転倒等リスク評価セルフチェックを全国実施するため、基準作りに試行錯誤を重ね全国研修に至りました。現在約5000名実施、今後も安心安全に取り組む会社を目指しています。

15:30 当院での職業性腰痛予防対策の実践活動報告～医療安全委員会を通じて～

(医) 三省会堀江病院リハビリテーション科理学療法部門リーダー 渡良太

院内医療安全委員に講師として参画。職業性腰痛のリスクマネジメントを目的にした活動報告です。工夫点は動画配信拡張、苦勞した点は継続性でした。振り返りは教育体制の構築ができました。今後の展望は人間ドックの運動器健診参入で安全で働きやすい職場環境の形成、健康経営推進の活動継続です。

10:10 特別報告 職場におけるハラスメントをなくすために

テレビ朝日映像(株)経営管理事務局コンプライアンス部主任 ハラスメント相談員 心理相談員 惣部潔

職場のハラスメントをなくそうとした時、メンタルヘルスと表裏一体と考えた対策を施す必要があります。そして、この2つは、新人教育や高年齢労働者の活性化ともつながっていました。具体的事例も盛り込んだ、分かりやすい啓発活動の実績と、そこで直面した新たな問題点も報告されました。

10:50 シンポジウム ポジティブ・メンタルヘルスで元気に働く～「職場の強み」に注目した事業場での取り組み～第

1部：基調講演「ポジティブ・メンタルヘルスとは」※※

慶應義塾大学総合政策学部教授 島津明人

第2部:パネルディスカッション

慶應義塾大学総合政策学部教授島津明人

東海旅客鉄道(株)健康管理センター主任臨床心理士森脇正弘

(株)友伸エンジニアリング総務部総務課長塩谷朋之

中央労働災害防止協会健康快適推進部長林かおり

「ポジティブメンタルヘルス」とは、働く人が心もからだも健康な状態で元気に働いて、生産性の向上や組織の活性化を目指す取り組みです。メンタルヘルス不調者への対応や高まったストレスを軽減化する対策は大切です。しかし、良好な状態で前向きな心の健康を意識した「ポジティブ・メンタルヘルス」の取り組みも大事です。そのためには「個人」と「仕事」のいずれの資源も充実させることにあります。本パネルディスカッションでは、「ポジティブ・メンタルヘルス」について解説されるとともに、事業場での取り組みを紹介されました。

13:20Office365を活用した新たな職場支援の検討※※

東日本旅客鉄道(株)JR東日本健康推進センター保健看護室主任看護師小田原佳子

健康経営数値目標の理解度向上・目標達成に向けヘルスリテラシー向上につながる支援を検討しました。健康職場づくりを目的にオンラインコミュニティを作成し、健康イベントを実施。Office365習得度やヘルスリテラシーに関わらず、あらゆる社員が参加できたと評価を得たということでした。

13:40ウェアラブルデバイスを活用した新たな健康づくり施策※※

中部電力(株)本店安全健康推進室健康増進グループ保健師牧野瀬理

該社は全従業員への個別保健指導やメンタルヘルス対策などの健康施策を推進しています。2022年2月には、従業員の健康づくりをさらにサポートするため、希望者全員にウェアラブルデバイスが配付されました。デバイス使用者の行動変容の概要等について報告されました。

14:10講演「コロナ禍、DXがもたらす職場の変化と働く人のメンタルヘルス」※※

東京大学大学院医学系研究科デジタルメンタルヘルス講座特任教授東京大学・名誉教授(一財)淳風会理事川上憲人

コロナ禍による感染防止対策・社会的距離の拡大、およびコロナ禍が加速したテレワークなどの自律・分散型の働き方や企業のデジタル・トランスフォーメーション(DX)により、働き方は大きく変化しました。これを踏まえた、ポストコロナ時代におけるメンタルヘルス対策のあり方について講演されました。

マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

9:50働く人のウェルビーイングの見える化と行動分析学的手法による職場の改善※※

国立大学法人長岡技術科学大学技学研究院システム安全系システム安全工学専攻北條理恵子

昨今、安全・安心だけでなく、「働きがい」や「意欲」についても事業所が責任を担うことが当たり前になっている。SDGs等の世界の潮流もあり、企業はこぞって「ウェルビーイング」を高める活動を目指している。本講演では、ウェルビーイングの現状の見える化、評価法、改善のための手法が紹介されました。